

昆虫 part-1

Insect



河川敷を華麗に彩る ツマグロヒヨウモン

流域の河川敷の代表的な蝶で、滋賀県では4月末からアブラナやレンゲソウの花の上を飛びかう姿が見られます。幼虫時代に食べるパンジーの栽培が増えてきていることもあって、年々その数は増えています。河川敷にはこの他、キアゲハ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、モンシロチョウ、モンキチョウ、アカタテハ、キタテハなどさまざまなチョウの仲間がやってきますが、植物相の多彩さが昆虫の種類の多さにもつながっているのがうかがえます。

琵琶湖の河口で 初めて発見

ムナグロチャイロ テントウ

琵琶湖にそそぐ込む姉川の河口に近い場所で初めて発見されました。ヨシ原にはアブラムシの仲間がよく集まってくるので、それをエサにして食べているテントウムシにとっては絶好の住み家になります。ヨシ原はチョウやスズムシ、コオロギなどその他さまざまな昆虫にとって大切な生息地になっているだけに、これからも残していきたいものです。

湖岸に住む溪流性昆虫

ヤマトフタツメカワゲラ

世界的にも珍しい湖岸に住むカワゲラの仲間。琵琶湖の岩や石がいつぱいの岸辺に好んで生息しています。岩の上、ヨシの茎、堤防などで羽化し、場所によっては5〜6月にたくさんの抜けがらが見られます。



河原の石にそっくり カワラバッタ

石ころがごろごろした河原で、砂地と草がある場所に生息しています。石の上にいるのがおおむねオスで、メスは産卵のため砂地にいます。空色をした後ろ羽がとてもきれいなバッタですが、石の上にとまっていると色や模様が周囲に溶け込んで、忍者のように姿が見えなくなることも。以前は桂川・木津川・宇治川の三川合流地点などでも見られましたが、環境の変化に弱く、いなくなってしまう。今では琵琶湖に流れ込む川の流域を中心に住んでいます。

